畑の天気 10 月
☀26日 🌀2日 ☁3日
最高気温 32℃
平均気温 30℃

うたきの杜たより

第11号

2026.11.19
石垣市平得1032－2

身体の底を流れるもの





今年の石垣島まつりでは、120人余りが「鷲の鳥節」を踊り、華やかに開会を飾りました。その日の新聞には、絶滅危惧種のカンムリワシが交通事故に遭い、今年6件目、そのうち 5 羽が死んだとの記事。ワシから「助けて！」という声が聞こえるようでした。「鷲の鳥節」を大切にする者として、この命とどう向き合っていくのか、考えさせられました。

今回は、戦後 80 年の沖縄を見つめたドキュメンタリー映画「沖縄・やんばる・東海岸物語」に関わって感じたことを書いてみます。編集・監督は奥石正さん。撮影から編集まで一人で手がける80歳の監督で、みんなから「じぃじ」と呼ばれています。

話をするたびに感じるのは、深い教養と、私とは違う感性です。その違いはどこで生まれたのだろう。私が関心を持ったのは、じぃじの幼い頃の体験でした。

5・6歳の頃、毎日全力で遊び、夕暮れになると一人で棚田のあぜ道を帰る。山梨の高い山が黒くなっていく時間。くたびれて、ひもじくて、眠くて、そんな気持ちを抱えながら、とぼとぼ歩く。ポケットには、その日一緒に遊んだヘビやカエル、ウナギやドジョウ、虫たちがいる。ヘビに指をかませ、赤い目とにらめっこしたり、身体にはわせたり。何でも触れ、身体丸ごとで感じ、記憶していく。木も、木肌からその特徴を覚える。自然のすべてが仲間だったのです。

その幼少時代の体験が、今もじぃじの身体の底を流れている。映画づくりの先頭には、いつもあの頃のじぃじがいるのだそうです。だから、たくさんの本を読んでも観念的にならずにいられたと話してくれました。

じぃじの口癖は、「のびのびするんだよ」「コツコツ努力しなさい」「もたれかからない。どこにも、誰にももたれかからない」。また言葉にもとても繊細です。原稿やシナリオの言葉が身体にぴたりとこないと、何度も考え、悩みぬく。
言葉が身体から湧き出て、ぴたりと収まったときには、何とも言えない喜びがあるそうです。自分自身の生きた言葉は、生身の身体と感情から生まれる。私はそのことを教わりました。

40年にわたる膨大な撮影記録から作り上げた今回の映画。「全責任は私にある」という姿勢の視点や切り口は鋭く、時に胸が痛みますが、どこかほっこりする場面もあります。

私もじぃじとの出会いから、いろいろなことを学びました。仕事場では畑の天気や日々の変化を記録するようになり、「うたきの杜たより」では、畑の様子や地域の行事、自分の考えをお客様に伝えるようになりました。手を抜かず、一生懸命に大地と共に生きる。笑って、働いて、食べて、眠る。そして自由に、祈り、踊る。この石垣の風を纏いながら。

地球という地肌と自分のすべてを重ね合わせる監督のまなざし。自然を愛し、自分を信じ、のびのびと歩いていく姿から、私も自分の足元を見つめています。

試写会を終え、一部修正を経て上映に向けた準備が進んでいます。
沖縄が歩んできた歴史と、自然と人間の営みを見つめるこの映画を、ぜひ多くの方にご覧いただきたいと思います。

玉城　享子



